

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000515		
法人名	特定非営利活動法人 生きがいセンター		
事業所名	グループホーム生きがい(1ユニット)		
所在地	小樽市朝里川温泉2丁目694番3号		
自己評価作成日	平成25年1月15日	評価結果市町村受理日	平成25年3月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々と自然豊かな環境に位置しています。ホームの中庭には野菜畑や花壇があり、ご利用者様と一緒に野菜やお花の成長を眺めたり、草むしりをしたり、収穫などを楽しんでいます。のんびりと家庭的な雰囲気の中でご利用者様一人ひとりが楽しく安心した生活を送って頂けるように努め地域の子供達との行事や、近隣の子供会との小樽のイベントや季節行事など、交流を深めながら、地域に密着したグループホーム作りを行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani%u%ae&amp;JigvosyoCd=0172000515-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani%u%ae&amp;JigvosyoCd=0172000515-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成25年2月19日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム生きがいは朝里川温泉郷に位置し、事業所の近隣には開校100周年を迎える歴史ある学校などがある。利用者やその家族がかつて通った学校に通う児童とのふれあいやPTAとの協力関係を築き、利用者が地域の中で暮らしていることを意識できる機会を大切にしている。事業所では2ユニットそれぞれが入居者の状態に合わせて独自の理念に基づくケアを実践し、その他に5つのポリシーを定め利用者の生活を支えている。中でも「自信の回復」には職員が力を入れており、日常生活のみならず、趣味活動など利用者の興味の幅を広げるように取り組んでいる。日々の業務の中で見出された課題や改善点について、隣接する同法人のグループホーム全7ユニットの主任会議で話し合い、各ユニットでも情報を共有することで法人全体のスキルアップを図っている。また、職員が利用者の安全の確保と自由な生活について検討を行い、施設を行わないケアにも取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作っています。玄関や休憩室に貼りいつでも確認出来るようにしています。社内研修でも定期的に取り入れ確認し実践出来る様にしています。	運営理念や事業所独自の理念である「地域に密着した私達の理念」を掲げている。職員が理念を意識することで地域との交流行事などが活発になり、利用者の張りのある生活を支えている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子供達と行事を行ったり、子供会とのクリスマス会や、雪明かりのオブジェ作りなどを行っています。地域の小学校の運動会や学習発表会に参加させて頂いています。	雪あかりの道、ハロウィンパーティーなど、近隣住民や学校PTAなどと協力し企画している。学校行事などにも招待を受け、利用者が参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で包括支援センター、消防署の方達などの意見交換をしています。地域交流の際にはご利用者様との接し方や支援方法など説明し認知症について正しく理解して頂けるように努めています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進委員会を開催し地域の方々やご家族との話し合いの場を設けています。生活の様子を話したり意見の交換を行いサービス向上に活かしています。	地域包括支援センター、消防署、民生委員、小学校、家族などの参加を得て、防災の地域の協力の在り方など多様なテーマで話し合い、意見交換している。議事録も克明に記録されている。	運営推進会議の開催案内文書にも議題の明示を行ったり、終了後、課題や議論の結果を関係者と共有するため、会議録を玄関に設置するだけではなく家族にも送付する等の開示の工夫を期待する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	インフルエンザに感染した時など、報告して、助言など頂いています。	小樽市の介護保険課に利用者の様子を伝え、必要な場合には担当部署の紹介を受けたり、事業所として適切な対応などのアドバイスを受けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会や社内研修により学んでいます。現在、玄関の鍵については、外から入る際には自動で開くがホームから外へ出る際は遠隔操作にて開く形になっている。	職員が3カ月ごとに身体拘束についての理念を読み合わせている。身体拘束廃止委員会はホームごとに設置され、研修を積み重ねることにより拘束しないケアの実践に取り組んでいる。現在は夜間を除いて施錠していない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的社内研修を行い高齢者虐待防止については職員が熟知出来るように努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて学ぶ機会を持ったが、活用には至っていません。今後も制度の理解に努めて行きたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、利用者様やご家族に十分に説明を行っています。契約後も不安や疑問点がないか確認しています。解約時にも不安の軽減に努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見や不満・苦情に思っていることがあれば、都度伺う様にしています。	年4回の事業所便りの発行や利用者や家族と一緒に楽しめる行事を企画し、生活の様子を伝えている。また、来訪時や介護計画の説明時に意見を引き出すようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に意見や提案を聞いたり、定期的にフロア会議を開き意見交換の場も設けています。	職員同士のコミュニケーションが活発である。管理者も職員の要望やニーズに耳を傾けている。職員からの提案を受け利用者の状況に合わせた職員配置を行う等、具体的に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	段階に応じて社外研修で学ぶ機会を作っています。また、資格修得についても勤めており社員登用の制度もあります。職員が前向きに働ける職場環境作りを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の研修にも沢山の職員が参加できるようにしています。資格修得についても勤めており有資格者が勉強会を開いたりする支援も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と相互訪問研修を行い他社の運営方法やサービスについて学ぶことでサービスの向上を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様と面談を行い、ご本人の意向、不安に思っている事などをお聞きし状況の把握や不安の軽減に努めています。また、ホームの見学も勧めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から、ご家族の思いを具体的によく聞くようにしています。サービス開始時の不安の軽減を図っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の話を傾聴し、必要とする目標を共有し最善のサービス提供に添えるように対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の体験談や生活の知恵を聞き教えてもらうという姿勢で接しています。人生の先輩として接しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話・近況報告などで日々の様子をお伝えし、ご家族からの意見もお聞きしより良いサービスが出来るようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人との面会などを通じて関係を継続出来るよう努めています。ホーム入居前からの病院受診についてはご家族の協力を頂きながら関係が途切れない様になっています。	入居前からの馴染みの美容院への外出や寺院へのお参りなど、家族対応で行っている。知人等の来訪時には居室で利用者と共に花札などで楽しんでもらうこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や個々の性格に配慮しながら、気の合う仲間作りの支援をしています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気兼ねなく何かあったら相談して下さいと、お伝えしています。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の中で希望や意向など、その都度聴くようにしています、困難な時などは表情や動作からくみ取り本人本位に努めています。また、その為にコミュニケーションを大切にしています。	意向を引き出すような声かけや関わりを行い、利用者が興味を持って話してくれるよう取り組んでいる。また、利用者の思いや希望を職員が申し送りなどで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族より、生活歴や趣味・嗜好などを伺い、サマリーなどに記録し、サービス提供に活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事・水分量・バイタル測定・排泄などのチェックを行い、職員間で共有し、記録にも残しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族の意向を伺い職員間で定期的に話し合いを行い、ご本人の状態を見ながら、個々に合った介護計画を作成しています。	介護計画は3カ月おきに作成している。安全に配慮しながら利用者の自信回復の視点を大切にし、希望を叶えるための計画を職員全員で話合って作成し、日々の支援を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を細かく介護記録に記録しています。申し送りや、送りノートを使用し職員間での伝え忘れのないよう情報の共有に努め、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の同行が難しい時の通院や、美容室の同行など行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の行事に参加したり、子供会や地域の子供達と一緒に行事を行ったり、歌会やお茶会・指圧ボランティアの方々の協力を頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、協力病院に移行するか、以前からの病院を継続するか、利用者様・ご家族に確認をし希望された病院受診が行えるようにしています。後に協力病院に移行を希望される方にも対応しています。	往診や、バスでの送迎がある病院の受診ができる他、入居前からのかかりつけ医の受診の場合には血圧等、家族が付き添っても医師に状況を説明できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の事で何か心配事などあったらかかりつけの病院の看護師に相談し、助言などを頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご利用者様に関する必要な情報を提供し、ご家族・病院と連絡を取りながら、速やかな退院支援に結びつけています。退院後出来るケアを具体的に助言してもらっています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については入居時にご本人やご家族に話しをしています。状態の悪化が予想される場合は早い段階で主治医、ご家族と十分に話し合いを行い方針を決めています。	重度化や終末期について、医療ニーズが高い場合は協力病院や協力介護保険施設があることを入居の段階で伝えている。利用者や家族の希望を踏まえ、状態に合わせて医師を交え家族等との話し合いを行っている。	入居時に協力病院等について説明を行い、退去が必要な場合の事業所の方針を説明している。しかし、文書化した指針等がないため、事業所での考えや、どのような連携が可能なのかなど指針を作成し、家族等との共有を行うことが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	適切な対応が出来るように社内研修で定期的に学んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、夜間想定避難訓練も行っています。地域の方にも参加して頂いています。	年2回、昼夜を想定して避難訓練を実施しており、消防署や地域の福祉施設と災害時の協力体制を築いている。職員の救急救命訓練も定期的受講している。	施設の立地条件を踏まえ、既存のシナリオ通りの訓練ではなく、管理者と法人が協力して危機管理的観点からより現実的・具体的な想定を行うことを期待する。また、緊急避難場所を家族にも周知する事や、救援が来るまでの備蓄にも配慮することを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬い、尊敬の念を忘れないよう、教えて頂く立場と考えながら、対応や言葉掛けをしています。	優しさやぬくもりのあるケアを行うために5つのポリシーを基本として社内研修で学び合いながら実践につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身で決定出来るように問いかけたり、わかりやすいようにお伝えしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活は、ご利用者様のペースを大事にしており、個々の性格・体調・状況に合わせて対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装や、その人らしい服装が着られるように支援しています。また、美容室にお連れするご利用者様もいらっしゃいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じテーブルと一緒に食事をしています。季節の食材を使用した食事を提供したり、中庭で食事をしたりしています。また、テーブル拭きや食器拭き、箸並べなどもお手伝いして頂いています。	メニューは法人全体で組織する給食委員会で検討し、利用者からの希望を取り入れながら提供している。行事食なども取り入れる他、食卓での楽しい会話も大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事・水分量を記録し、体調や状況に合わせ食事形態も摂取しやすい様に配慮しています。主治医から補助食品を出して頂いているご利用者様もいらっしゃいます。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや誘導にて歯磨きを行っています。夕食後は義歯を預かり洗浄剤につけ衛生保持に努めています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導や、声掛けなどさり気なくサポートしています。失禁による不快感を軽減し出来る限りトイレにて気持ちよく排泄して頂けるように努めています。	利用者の生活場面での自信回復に力を入れているため、失敗をなくし羞恥心への配慮に取り組んでいる。職員が適切な誘導を行うことでリハビリパンツから布パンツになった利用者もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、体操など取り入れています。便秘の場合は医師に相談し下剤を処方して頂き状態に合わせて調整などしています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や気分など考慮出来るだけ本人のペースで入浴が出来るように支援しています。シャワー浴も用いて個々に合った入浴して頂いています。	体調や利用者の希望に合わせて、週2回程度の入浴を行っている。入浴の時間帯は午後だが、できるだけ希望に合わせて支援している。また家族対応で温泉を利用することもある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量や体調を把握し安心してゆっくり休むことが出来るように支援しています。また夜間も定期的に巡視観察を行っています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	説明書にて副作用・用法・用量を把握しています。服薬後の体調などの変化にも気をつけています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事や洗濯物のお手伝いを行って頂いています。歌会やお茶会、お散歩など気分転換を図っています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺に散歩に出掛けたり、春にはお花見、秋には紅葉狩りへと、自力歩行の方も車椅子移動の方も一緒に出掛けたりしています。	遊歩道や中庭で散歩したり、隣接するグループホームに出かけるほか、バスレクとして花見や紅葉狩りなど、外出行事も行っている。利用者の希望に沿って更に多くの外出支援が行えるよう職員は検討を行っている。	玄関の施錠を行わないための検討とともに、外気浴や畑に出掛ける等閉じこもりがちにならないよう取り組んでいる。しかし、もっと外出機会を増やしたいという職員の思いを実現するため、家族や関係機関あるいはボランティア等の協力を得、出来る限り利用者の外出が出来るようより一層工夫すること期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で金銭管理をされている方はいらっしゃいません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・知人への電話はいつでも掛けられます。お手紙が届くご利用者様もいますが、お返事を返す事はありません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事に沿うように、ご利用者様、職員とで飾り付けなどを楽しく過ごせるような空間作りに努めています。	ユニットごとに居間のソファの配置を工夫するなど、利用者のその時の身体状況などに合わせた工夫を行っている。季節感のある利用者手作りの作品などを飾り、暖かい雰囲気になるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア・リビング・居室などを自由に使用して頂き気の合ったご利用者様同士でお喋りしたり、居室にてラジオや音楽を聴き個々に過ごされたりもしています。またソファも多くあり、ゆったりと過ごせます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人が慣れ親しんできた物を置いて頂き居心地良く過ごして頂けるように配慮しています。	利用者がそれぞれに使い慣れた家具や愛着のある品々を飾っている。音楽を聴いたりしながらゆっくり過ごせるよう、居室が安心できる空間になるよう職員が支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで手摺りも設定しています。また、居室やトイレなどには表札をつけ、ご利用者様の出来ること・出来ないことを把握し出来ないことは一緒に行い自立に向けた支援を行っています。		